

○樹皮に着くクロゴケ (岩月善之助) Zennoske IWATSUKI: *Andreaea rupestris* var. *fauriei* on bark

クロゴケ *Andreaea rupestris* var. *fauriei* (Besch.) Takaki は我が国の代表的な高山藓で、堀川芳雄教授、高木典雄博士その他によってその分布や生育環境もよく調べられている。着生基物は石灰質を含まない岩石で、例外的な記録として 1905 年に Faurie 師によって樹上で採集された例があるだけである。筆者は 1962 年 10 月に Faurie 師と同じ木曾御嶽でシラベに着生するクロゴケとその生育環境を観察することが出来たので報告しておく。観察地点は木曾御嶽小坂口の仙人滝 (海拔約 1800m) 附近で、御嶽でのクロゴケ生育地の下限である。調査木は標高 8 m のシラベの若木で、溪谷西側の岩壁から 10 m 程の位置にあり、地上 1 m の部の幹上に掌三つ位の大きさのクロゴケの群落を見出した。群落中にはかなりの数の子のうも着いており、植物体は形態的には、附近の岩上のクロゴケと差異は認められない。このシラベは基部まで陽のよくあたる状態にある。*Dicranum viride*, *Hypnum subimponens* や *Rhacomitrium canescens*, *R. heterostichum* などの岩上藓がクロゴケと共に着生していたことから、樹幹部の環境がこれらの岩上藓の生育に適していたと考えられる。前記の Faurie 師の標本は産地が御嶽であったこと以外詳しいデータは不明である。何れにしる高地の乾いた岩上に多いクロゴケが垂直分布の下限に近い溪谷内でのみ樹上に着生することは生態的にも興味深い。(服部植物研究所)

□倉田悟: 樹木と方言 150pp, 21cm×15cm, 口絵図版 4, 1962, 地球出版株式会社。¥430。本書は植物と民俗、樹木の方言名、山里の人々、植物方言集の 4 部からなっている。林学専攻の著者が、ながい間、山野をかけ廻る間にいたるところで集めた材料を資料としたもので、それぞれの方言で呼ばれている種類の同定が正確で十分信をおけるもので、この方面に関心をもつものにとっては有用な参考書である。(久内清孝)

□ Charles Sprague Sargent: **Manual of the Trees of North America** (Second corrected edition in 2 volumes), 20×13 cm., 2 冊合せて通頁 1910 pp., 1961. Pub. by Dover Pub. Inc., New York この出版物は有名な本書を Dover Books の一つとした版であるので、厚紙表紙のいかにも安物の感じがするが、内容は 1926 に訂正増補された原本の複製版であるから、原著を所有していないものには便利なものである。いうまでもなく、北米の樹木だけを対象としたもので、メキシコは除外とことわってあるから北米だけにしか役立たないが、783 の附図があるから北米のものを見るのには良い本である。丸善での売価各 ¥900。(久内清孝)

□小倉謙: 改著植物解剖および形態学 pp. 223, 養賢堂 (1962. XI)。昭和 24 年にでた前著は内容も高く大きさも価も手頃で好著であった。それを用語、内容、挿図、文献にわたって校訂されたもので、形態学の教科書として一層充実した。¥450。(前川文夫)